



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称) (株) ウェルテック伸栄プレス工場	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点	満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0	/5		よい		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.3	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0	/5		よい		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)				評価 凡例	よい 4 点以上	
				ふつう 3 点以上		
				がんばろう 3 点未満		

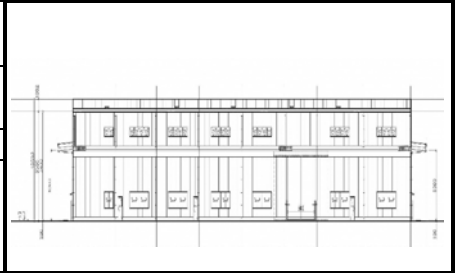
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	4.0	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管、2種類以上にBを使用し、Eは不使用とする。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内に植栽配置により外構緑化指数44%を確保した。 ⑥緑地や水面を確保し地表温度の上昇の抑制に配慮。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧トプライトを利用。 ⑨LED照明の採用。BEIm=0.26(レベル5)</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪泡沫水栓や節水型便器を採用。 ⑫内装が乾式工法(LGS)で分別性に配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算4.4。 ⑮車路以外の敷地に緑地を計画することで、ヒートアイランド現象の抑制対策に配慮。 ⑮主風向に対する見付面積比を18%とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた耐震性を有する。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高を3.9m以上確保。 ⑲壁長さ比率レベル5(0.07)で自由度の高い空間を計画。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑街並みに配慮した建物外装計画。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)				
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内に植栽配置により外構緑化指数44%を確保した。 ⑥空地率59%・緑被率+水被率+中高木の水平投影面積率36%を確保した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮ゆとりある隣棟間隔とした。 ⑮敷地内に芝生を植え、地表面対策面積率を42%とした。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② ② まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) (株)ウェルテック伸栄プレス工場	階数	地上1F
建設地	静岡県磐田市南田伊兵衛新田字中山添5番3 他	構造	S造
用途地域	工場専用地域	平均居住人員	10 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,928 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年4月1日
敷地面積	7,217 m ²	作成者	金田 剛英
建築面積	3,033 m ²	確認日	
延床面積	2,948 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・92)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 ・周辺の景観に配慮した緑化計画を行った。 ・大型車が出入りするため、敷地内の交通動線の計画を行った。 ・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		その他 0
Q1 室内環境 工場用途のため評価対象外とする。	Q2 サービス性能 ・更新必要間隔を考慮し、耐用年数の長い配管を採用した。 ・設備システムの変更等に支障がないようするため、階高にゆとりがある計画を行った。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地内の21%を緑地とする緑化計画を行った。
LR1 エネルギー ・太陽光を利用した、自然採光システム「トップライト」を採用する。	LR2 資源・マテリアル ・環境性能に配慮した外装材や屋根材を採用する。 ・節水型の器具を採用する。	LR3 敷地外環境 ・渋滞緩和のため駐車場のスペースを確保し、大型車両の荷捌き場所を計画した。 ・車路以外の敷地に緑地を計画することで、ヒートアイランド現象の抑制対策に配慮。 ・光害抑制のため、屋外広告物照明を行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される